

編集後記

●大河ドラマ「光る君へ」を毎週楽しみにしています。想いかえせばわが母校、高校3年生の時に古典の授業は必修科目でした。独特かつ朗々としたお声で源氏物語を読んで解説して下さっていたおじいちゃん先生の声をBGMに、当時の私は爆睡していました……。J 太郎先生、今さらながらごめんなさい。

(高橋さなみ)

●学会のオンライン参加が定着した感があります。もちろんその現場に行き、ご当地の観光、名物を食す、旧友との談笑等、醍醐味は承知の上ですが、良い点もあります。休診せずにお目当ての講演を聴けたり行儀を気にせず参加出来るのも良いです。むしろ聴講時間も増えたかも知れません。ハイブリッド参加大賛成です。

(天野隆文)

●診療報酬改定や雇用問題に頭を悩ませております。DX化で便利になるはずが、今のところかえって仕事が増えているような気がします。一番の癒しは川口先生も書いていらっしゃいましたが、孫です。

(江川ゆり)

●毎年6月、我が家では庭の梅と杏の収穫、そして梅酒・杏酒・杏ジャム作りで忙しいのですが、今年はどちらも不作です。暖冬の影響で全国的に不作のようです。毎年大量に生産して在庫を抱え頭を抱えているので、ほっと一息ではありますが、今年も暖冬でしょうか？

(岡澤ひろみ)

●昨年3月に『みるく』が我が家にやってきました。ビション・フリーゼという犬種で白くふわふわした犬です。どんなに疲れて自宅に帰っても尻尾を振って飛びついてくる『みるく』に癒され、毎日を過ごしています。仕事は山積しておりますが、忘れることができる時間も必要かと思っております。

(加藤正幸)

●幹事をした第123回日皮総会での第九演奏、2020年総会での演奏をめざしたキックオフから実に5年半の歳月を経ての実現でした。お声かけ頂いたきっかけは神皮混声合唱団の名声？です！ 今回の演奏、総会に参加されていたドイツの先生からもお褒めの言葉をいただきました。神皮⇒日皮ときて次はどこかの国際学会で？ いやいや……。

(河原由恵)

●ゴールデンウィーク後から水いぼが増えてきました。万事自粛だった際にはほとんどみられず、絶滅したかと思っていたのに。とるべきか、とらざるべきか、悩ましいです。

(根岸 晶)

●今春、盛岡のマンションから金沢区に転居し、庭造りを楽しんでいます。季節の草木を愛でつつ、『保険診療いろは』をバイブルに、猛暑を乗り切ります！ 岡澤先生ご執筆のラブちゃんのような犬を家族に迎えるのが、今の目標です。診療でお忙しい皆様が、ほっこりとした時間をもてるような神皮となりますように。

(花田美穂)

●昨年度で30年勤めたこども医療センターを定年退職し、介護保険証を受け取り人生の新たなステージに突入しました。“終活”という言葉が妙に現実味を帯びて聞こえるようになりました。

(馬場直子)

●今年も鈴鹿でF-1を観戦した。35年前のチケットは往復はがきでの申込みだった。やがてWebで販売されるようになり、今年から希望の席種だけでなく座席番号も選べるようになった。デジタル化の進歩は素晴らしいが、チケットは紙からスマホ表示が変わってしまった。記念の半券はもう手元に残らない。失う物もあるIT化。

(原 尚道)

●5月にクリニックのスタッフ11人を率い、貸切バスにてディズニーシーに日帰りで行きました。想像以上に盛り上がり、主婦パワーを体感することができました。

(真鍋泰明)

●物に溢れかえる我が家。終活も考え、思い切って引っ越すことにしました。同じようなことを考え、横須賀の新築マンションに引っ越された看護師さんが言っていました。8割がたは捨てられると。我が家の場合、あと半年で8割を捨てられるとは到底思えません。今から不安です。

(山川有子)

●毎年、神皮原稿の締め切り時期は各種団体の年報の原稿依頼が来る頃でもあります。内容も似通ってしまうし、いつまでに送るかも分からなくなってしまう。年度の切り替えが適度にばらけているといいのにな。

(渡邊 憲)

神 皮 〈第31号〉

2024年7月7日発行

発行 神奈川県皮膚科医会

発行人 川口博史

〒236-0021 横浜市金沢区泥亀2-8-12

金沢皮膚科

電話 045-791-5510

制作 かまくら春秋社

■表紙のことは

「鶴岡八幡宮 段葛の夜桜 (2024年4月)」

段葛の大改修から8年が過ぎ、若木だった桜はきれいな花を咲かせています。週末だけでなく平日でも、朝から夜まで桜見物の人々が押し寄せます。最後の見物人が立ち去り、路上駐車の手がかりが23時50分。若宮大路によろしく静寂が戻りました。

(原 尚道)